

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

平和とは何なのだろう？ と、時々考えます。多くの人々は、「戦争がないこと」と答えるようです。“平和”とは、文字通り「たいら（平）のわ（和）」と書きます。これから推測すると、平和とは、人々の生活が“平穏で和やか”な様子なのだと思います。

人々の生活が、平穏で和やかであるためには、まず、生活における衣食住が足りていなくてはなりません。そのうえで、自己の才能を発揮する何らかの業務に携わることが必要です。これは、仕事を持つということです。仕事は、“お金を得るため”ではなく“自己の能力の一部を社会へ還元する”という側面が大切なのです。こうすることで、社会に必要な業務のピースが埋まり、すべての人々の衣食住が保たれることになるのです。

さて、現在の社会、ここでは日本になりますが、“平穏で和やか”な状況になっているでしょうか？ 日本では、戦争はないものの“平穏で和やか”とは思えないのです。衣食住が足りない人々が増えている中、毎日のように殺人事件や強盗事件、あるいは大きな事故、災害など不幸な出来事が起きているわけですから、とても平穏とは言えないでしょう。

今日の社会を発展させた一つに、科学技術の進歩があると思います。これは物理的なものから積み上げが可能です。しかし、人の心は、各人のものであり、子が親の心の発達の上に簡単に積み上げることができません。こうして、科学的進歩と心の進歩の溝が深まっていくのです。宇宙船を飛ばせる科学技術力を持つ一方、殺傷兵器で人々を攻撃しているのです。

このような世界でも“我関せず”で、楽しく生きることは可能です。しかし、カルナが語る通り「このような苦悩が宇宙のどこかにまだ存在するなんて、いっそう悲しいことです。」と、苦しみを自己に置き換えることも必要でしょう。スペースピープルは、一言で言えば科学技術と哲学を重視しています。科学技術は、宇宙の法則の応用であり、哲学は、宇宙の意識の実践であると思います。この哲学の部分が、今の人類は、あまりにも希薄であると感じています。この部分をアダムスキーから学ばなければ、いつになっても人類は、平和にならないのだと思います。

“言葉に注目”

<われわれが“父”の方へ帰るのは機が熟した時なのである>

G・アダムスキー著『UFO・人間・宇宙』（中央アート出版社）

表題は、「肉体の意識の変換」と題された小論の一節です。前後の文章には、その説明はありません。察するに、“機が熟した時”というのは、単に待っていれば来るというようなことではなく、自己の自由意志を父の意志へ従わせる不断の努力が求められます。この努力により、様々なことを学んでいると“機が熟する”のだと想像されます。相当な決意のもとに行動しても、ある程度時間がかかるということです。

このことは、「人間にとって唯一の希望は、人間が意識を変換させて再び生まれ変わることにある」と書いていることから、最も重要なことであると理解されます。こうなれば、意識に基づき地上に天国が訪れるということを知らせています。

「生命の科学」学習のポイントPart101

今回は、レクチャー10『機械のかわりに意識眼を用いること』です。

まず、表題に記載したのは、意識は人間の心を指導するのに決して誤らないからだと書いています。そして、「意識にまかせるならば・・・印象類は何らゆがめられることなく感受されるのです。」としています。そうすれば、意識の印象が正しいことを心に証明できると言います。

これらを踏まえたうえで、「宇宙のすべてを人間に知らしめるような機械は決してできないでしょう。」と書いています。そして、「心と対になっている意識こそが宇宙全体に関して人間が知るために唯一の道具です。」と意識を信頼することを強調します。続けて、「これまで使用されてきた機械装置類は、結局、心にたいして意識の指導を信用させることになるからです。」と書いています。

これは、意識の指導により多くの機械装置を作成してきたという事実、そして、そこから多くの学びがあったという因果関係を認めざるを得ないということです。

そして、「ですから心はこれまでのように自身に頼るかわりに、すすんで意識から指導を受けねばなりません。」と書いています。そこで、「これこそ心がその半身を見出して全宇宙の一部になるための唯一の方法です。」としています。

これらのことから、「われわれが望遠鏡を通じて見た物を信じたように、意識でもってこれと同じことをしっかりやる必要があります。」と書いています。

問題は、地球人には、この“意識”がわからないということです。これが、問題のすべてと言ってもよいものです。“意識”は、これだ！という経験がないのです。否、経験しても気づいていないと考えるべきでしょう。これは、特別な感覚を伴うものではなく、自然なために区別できないのです。この辺は、警戒をしながら生きて、学んでいくしかないと思います。

宇宙に“生きる”

<名言格言編101>

“付和雷同（ふわらいどう）”

「雷同」とは、雷が鳴ると物がそれに応じて響くことを言います。そこでこの意味は、自分に定見がなく、わけもなく他人の説に賛同することを意味します。大衆がこのようであると、先導されやすいこととなります。自己の考えは、きちんと整理する必要があります。



Q：UFO（UAP）の話題が増えているが？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：アメリカ政府が公認し、公表していることから多くの期待があるようです。留意すべきは、多くの人々に信用させながらミスリードしていく可能性です。アメリカ政府は、アダムスキーを知っていながらの活動なのです。期待もしますが、疑義を持たないわけにはいきません。

書物紹介

『思考のすごい力』 ブルース・リプトン 著 (株)PHP 研究所

著者は、世界的に知られた細胞生物学者です。彼は、イエス亡き後、キリスト教普及の功労者であるサウル（パウロ）がキリストに導かれた体験と比べられるような体験をしたという。それは、内なる声が「わたしたちは不滅の霊的な存在であり、身体とは別に存在している。」と言ったというものです。本書では、遺伝子は単なる設計者にすぎず意識や環境が細胞をコントロールし、遺伝子のふるまいを変えると唱えます。ア氏を傍証する価値のある1冊です。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

★東京開催★ 2023年11月18日（土）、2024年3月16日（土）午後1時30分より台東区民会館第1会議室。状況により変更があるかもしれません。HPをご確認ください。

【編集後記】

今回は、やや余裕をもって編集できた方です。しかし、暑くて、種々の業務の中、気の乗らない日もありましたが、完成できてよかったです。

URL：<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第101号>

発行日 令和5年9月10日

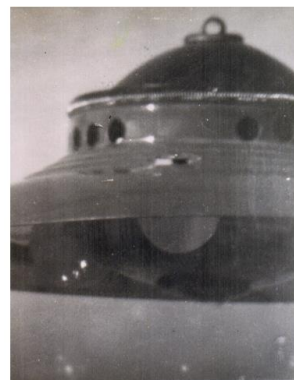
編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町1-3000-1

発行責任 渡邊克明（禁無断転載）

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

“宇宙根源の力”を認め、それを活用していたのは四聖人は当然なのですが、四聖人でなくとも老子とその一派など少なくありません。日本においては、江戸中期の思想家石田梅岩などがその一人ですが、今日でも松下幸之助さんや稲盛和夫さんなどがいます。

彼らは、「宇宙根源の力は、生成発展の法則に基づいて働いている」と理解し、松下さんは、それを理解できるのは人間しかないと言っていたようです。この“宇宙根源の力”を理解し活用できる人は、それぞれが人生の大成功者であり、多くの人に良き影響を与えてきました。

しかし、その考え方は、今日においても世の中の一般的な理解とはなっていません。それは、なぜなのでしょう？ おそらく、こうした成功者の教えや思想を知る機会があったとしても、「正しく伝わっていない」とか、「その意味を理解できない」からではないかと考えられます。

なぜ、“宇宙根源の力”を理解できないのか？ それは、各人に“宇宙根源の力”につながるような経験がない、あるいは、これが宇宙根源の力だと解釈できないからだと思われれます。また大方の人々は、そのような成功者は、天才やまれに見る存在で、自分とは異なる人々と考えているのだと思われれます。

しかし、この“宇宙根源の力”を認め生きてきた人は、真理を知る人であり大成功者であることから、そのことを理解する意義は大なるものがあります。これは秘儀のように見えますが、実際には、誰もがそれを理解する力を持っていて、当然のことなのだと思います。

この“宇宙根源の力”をアダムスキーの“宇宙の意識”と同義にとらえると、それを理解するには四官のコントロールが必要です。つまり、エゴをコントロールするのです。これは、仏陀の重要な教えと同じですが、あまりそのように解釈されていないようです。

今日、アダムスキーが伝えている事柄が、“宇宙根源の力”にアクセスする方法なのです。エゴのコントロールは、仏陀の時代では修行として知られているのですが、今日でも、四つの感覚器官が暴走しないよう訓練することは変わらず大切なことなのです。

“言葉に注目”

<…勇猛な肉体に二人の人間が存在するという印象を受けた。>

G・アダムスキー著『UFOの真相』（中央アート出版社）

表題は、「アダムスキーに関するコメンタリー」として、デズモンド・レスリー氏が書いた文章の一部です。このようにアダムスキーは見えたということで、一つは、小さなアダムスキーで、「多数の人が集まるとのべつまくなしにしゃべり、曖昧な拙い表現で語られる概念の雲で聴衆をきりぎり舞いさせては常に人を押しのけて前進しようとする。」もう一つは、「巨大なアダムスキーで、それはわれわれはが知って愛するようになった男であり、親しい人だけの前だけに現れたアダムスキーである。」と書いています。これは、分かりやすく言うと、“ON”と“OFF”の違いであると思われれます。通常は、頭にある概念を放出するように語るOFFから、意識を感じて話し出すとONとなるのだと思われれます。

「生命の科学」学習のポイントPart102

今回は、レクチャー10『意識を望遠鏡として用いる』と『印象の受信の仕方』です。

『意識を望遠鏡として用いる』では、少しずつ意識のなかへあなたの心を拡張させ、ゆっくりと向上することを教えています。そして、やってくる映像に素直に聞き耳を立てて観察し、幼児のようにしておくことを教えています。

『印象の受信の仕方』では、初めに感受する印象は、ほんの一部にすぎないと言います。これは、はめ絵と同様で、時間がかかるのでその空白を個人的な観念で埋めてはいけないということです。地上からも多くの印象が来ていて、中には宇宙的な性質を帯びたものもあるので迷わないようにと語ります。アダムスキーは、あっさりこのように書きますが、このところが、一番難しいのではないかと思います。個人的な興味や関心、あるいは思い込みというものを誰もが持っていますが、そのことに自分が気づかない場合があることから、印象や映像が見えたときに自分の観念なのか区別できないのです。

また、アダムスキーは、「意識を通じてやってくる印象や映像は空想と密接に結びつけられやすい・・・。」と言います。これは、心が意識からの行為をコピーしているからで、空想が働く場合は偽物が混同しやすいので、注意しなければならないとしています。先述同様に、この辺が難しいところです。

こんなことも書いています。「たとえ異星人が地球へ来ないで、・・・宇宙旅行ができるのだということを知ってくれなかったとしても、地球人は意識から与えられる印象類に従うことによって早晩宇宙旅行に成功するでしょう」。そこで、個人的意見と切り離して、印象類を建設的に理解することを教えています。また、「人間のゴールは自分の心を意識に融合させることにあるからです」とありますが、この文章は、地球人としてのゴールを伝えたものだと思います。

宇宙に“生きる”

<名言格言編102>

“好機逸すべからず(こうきいっすべからず)”

チャンスというのは、なかなか来るものではない。絶好のチャンスは逃さず、自分のために役立てるのが良いとの教えです。当人は、チャンスに気づかないという場合があります。周りの助けがあって、実行できるという場合も少なくないようです。



Q：墜落 UFO 搭乗者はグレイばかり？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：ここが不思議なところです。中には、ロボット系もあるものと思われる。実は、この部分、「地球人と変わらない異星人」というのが最大の秘密で、最も隠しておきたいところであると思われる。そのため、あえてグレイ系ばかりを露出しているのだと考えられます。

書物紹介

『欲望の経済を終わらせる』 井手 英策 著 集英社インターナショナル

著者は、慶應義塾大学の経済学部教授で、新自由主義に席卷された日本の現状を、歴史をつぶさに振り返りながら解き明かしていきます。新自由主義は小さな政府を目指すことから、教育や老後も自分のことは自分で責任を持たされます。本来はお金儲けではなく、共同体の秩序と深く結びついていた経済に立ち返り、経済成長がなくても安心して暮らせる財政改革を提言しています。現実的かどうかはありますが、なかなか興味の持てる内容です。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

★東京開催★ 2023年11月18日(土)、2024年3月16日(土)、7月20日(土)午後1時30分より台東区民会館第1会議室。状況により変更があるかもしれません。

【編集後記】

秋は、様々な行事が多く11月が過ぎないと忙しさがなくなりません。しかし、Gア関係は最重要事です。最善を尽くしています。

URL：<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第102号>

発行日 令和 5年 11月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡 邊 克 明 (禁無断転載)

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

アダムスキーは、「全人類の99%は永遠というものを知らないで消滅する」と説明しています。これは、「魂の絶滅」を意味していると考えられます。魂の絶滅とは、その個人の魂が、仮に何百年も生きてきたとしても、その人が経験してきたすべての魂の記憶がリセットされ、ゼロからスタートするということです。これに至るまでに猶予として15回以上の転生が認められるようですが、その間にその個人の魂が目的を達成せず進歩の見込みがないと絶滅に至るようです。これは、土星からもたらされた知識とのことです。正確には、魂は継続しているわけですが、アダムスキーは、記憶を持たないものは継続ではなく消滅なのだと言っているのです。

この事実から言えることは、全人類には、それぞれに行うべき役割、あるいは共通した役割があるということです。これは、地球人の履修科目なのだと思えます。共通の役割、それは何か？

おそらく、1 心のコントロール、2 宇宙の意識の理解 の少なくともこの2つなのだと思われれます。

1は、自己の肉体に存する遺伝的なものや習慣など、悪い働きをする細胞を良きものに変化させることです。そのためには、心のコントロールが大切となります。心の喜ぶことばかりを追求する生き方は、これに反する生き方となります。これらは、仏陀が伝えたことです。

2は、それを何と呼ぼうが全宇宙に通じた指針である「宇宙の意識」に気づき、従うことを善しと認められることです。これは、イエスが伝えたことです。上述2つが、地球人共通の履修科目なのだと考えられます。「生命の科学」は、これを実現するための方法について書かれているようです。これが整って初めて、人として大宇宙を歩むことになるのだと思われれます。

しかし、現状は、地球が「魂のはじまりの星であり終わりの星」となっているようです。人として初めて誕生するのが地球であり、魂の記憶がリセットされるのもこの地球なのです。こうした星も必要ですが、地球は、それを脱する時期に既に来ているように感じます。これらのことを理解できる人々は、自己及び周囲に対して啓発できるよう努めていきたいものです。

言葉に注目

< 宇宙の隣人たちは生きるための原則を持っている >

G・アダムスキー著『UFOの謎』（中央アート出版社）

アダムスキーは、表題のように書いて、次の4つのことを示しています。（1）日常の健康と慰安にとって実際に必要なものだけを望むこと。（2）偏愛することなく万人を平等とみなすこと。（3）自分の想念を観察しコントロールして、それをいつも宇宙的な状態に保っておくこと。（4）万物が奉仕し合っていることにたいして感謝をすること。

これは、金星人の生活における指針のようです。特別なことのように見えませんが、その意味をどれほど理解できるのかが問題です。実際、これを実践するとなると地球では難しいのではないのでしょうか。とはいえ、ここに書かれていることだけでも、意に留め歩んで行けるなら、少なからず進歩できるように思います。

「生命の科学」学習のポイントPart103

今回は、レクチャー10『基本的な自律訓練法』です。

初めに、「基本的な段階から始めることにしましょう。」と書いて、「まずあなたのセンスマインド（心）をリラックス（ゆったり）させること。」と言っています。この“リラックス”というのがなかなか難しいのです。そこで、「これはセンスマインドが自分のためを思って、それ自身（センスマインド自身）にたいする関心を捨ててしまう場合にのみ達成できます。」としています。

この“センスマインド自身の関心を捨ててしまう”というのをどう理解するかです。この段階で予想できるのは・・・心というのは、四つの感覚器官からできていて、それぞれの器官の好むものについて、あるいは阻害するものについて関心を持っているということです。これは、日常的なことです。その統合である心は、脳によって調整されますが、自己に関連する経験や思いなどから、欲求として様々な印象が駆け巡ります。こうした心の動き（雑念）を無くすことが、“センスマインド自身の関心を捨ててしまう”ことなのではないかということです。

続いて、これを説明するための具体的な補足です。「たとえば一人の少年が野球に熱中しているとします。ところが野球以外の物事を学んだり見たりしようとするれば、本人は野球に対する関心をセンスマインドから完全に追い出して、新しい物事に全注意力を集中させねばなりません。これと同じです。」ということです。

つまり、雑念と言われるような心の動きを止めるというより、心の器を空にして、新しいものが入れるようにするということです。その訓練として、やってくる印象類や映像に注意力を向けるには、目を閉じるのが良いと語ります。最初から多くを得ようとしないで、5～10分程度訓練することを教えています。まずは、このような自立訓練が必要だということです。

宇宙に“生きる”

<名言格言編103>

“信心過ぎて極楽を通り越す（しんじんすぎてごくらくをとおりこす）”

信心も度を過ぎると、かえって邪道に落ち込んで害になるという教えです。これは、人の心の盲目さや、度を過ぎた動きに警鐘を鳴らすものです。一方、アダムスキーは、盲目的な信念も重要と言っています。こちらは、意識へ向かう際の心構えというようなものです。



Q：サソリは自然界の創造ではない？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：確かに、アダムスキー講演ノートに書かれています。自然界は、そのような危険なものは創造しないということです。これは火星人が、兵器として遺伝子操作したと言っています。かつて、肉食動物を頂点とする現状は、火星人が作ったと言われていました。真偽は不明です。

書物紹介

『ザイム真理教』 森永 卓郎 著 三五館シンシャ

著者は、経済アナリストで獨協大学経済学部教授です。ご存じの方も多いと思います。本書は、財務省（旧大蔵省）がいかに力を持っていて、自分たちの論理を政界や財界、一般市民に押し付けているのかが書かれています。税金の範囲内で財政支出をしなければならないという“財政均衡主義”これを国民へも刷り込み、その弊害が大きいと様々な事例をもとに書いています。一般家庭では、収支は均衡ですが、国は別の論理が必要ということです。良い書物です。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆東京開催☆ 2024年3月16日（土）、7月20日（土）午後1時30分より台東区民会館第1会議室。状況により変更があるかもしれません。

【編集後記】

何かと多忙ですが、予定通り発行できて安心しました。行うことが多いので、日々の行いを忘れないよう注意しています。

URL：<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第103号>

発行日 令和 6年 1月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡 邊 克 明 （禁無断転載）

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

私たちは、ジョージ・アダムスキーを信じています。これは、「どういうことなのか?」。そのことを、少し整理したいと思います。

アダムスキーを信じているということは、太陽系内の他の惑星のすべてに私たちと同様な人間が住んでいる（住んでいた）こと、月には彼らの基地がある（あった）こと、地球人は他の惑星から移住してきたこと、従って進化論は正しくないこと、神は存在しそれは宇宙の意識であること、宇宙には絶対的な基準が存在すること、原子は記憶を運ぶこと、宇宙は人間をはじめ生命（生物）のために存在していること、人間は神に近づくように進化していくこと、旧約聖書は異星人とのやり取りであること、転生が存在すること、人間が宇宙の意識に基づき生きれば病気は消滅し平和を実現できること、人間は光速を超えられること、等々を信じているということです。

これは、魅力的で夢のようなことですが、真実であったとしたら大変なことです。なぜなら、今日の科学の成果を否定していて、それらが覆されるばかりか、地球上の価値観をはじめ経済、宗教、医学、歴史など多くの学問がひっくり返るからです。

その中で最も問題となるのが、おそらく「宗教」であると思います。古くからの宗教の多くは、他の惑星人の関与によって生まれている可能性があるからです。その中には、悪意のある異星人の関与もあるでしょう。これらを調査して、まともに公表できるほど正義や勇気のある教団は存在しないかもしれません。また、物理的には、エネルギー問題も大きいでしょう。

お金が支配する世界に、お金以上に価値のあるものが存在するとなると、その支配者にとってはありがたいものではないです。そして、社会・経済システムの大改革も必要になるでしょう。

こうしてみると、アダムスキーを信じているということは、大変なことだと確認できます。一般的には、頭がおかしいか、変人と見なされても不思議ではありません。しかし、これらを信じ切れる人々は、単なる憧れではなく何らかの「確信」を持っているはずで、他人にこれらを証明できなくとも、信じ続けるだけでも十分に祝福されている人々であると、私は思います。

「言葉に注目」

<「生命の科学」を生かさない。これについて話し合うのはやめなさい・・・>

日本GAPニューズレターNO. 58より

これは、当時、アメリカGAP財団のイングリッド・スティックリング婦人の発言で、アダムスキーが語ったとするものです。表題の前に、「あなた方は」と入り、続いて「これを他人に伝えなさい。」となっています。

このことから、「生命の科学」の学習会（勉強会）は、不要だと考える人もいます。しかし、この意味は、「生命の科学」を生かすというところに力点があり、話している暇があったら実践をして、人々へ伝えて欲しいということです。学習会などでは、文章に沿ってどのように理解するのか、他人の解釈を聞きながら、自らの読解力や説明力を高めていくものです。「生命の科学」は個人学習と実践が主なものです。しかし、グループでの学習も意味があるのです。

「生命の科学」学習のポイントPart104

今回は、レクチャー10『両手を見つめる練習』です。

初めに、「印象を得ることを続けるときに、絶対に心を失望させてはなりません。」と書いています。それほど、忍耐力を伴うものだという事です。

そして、テーブルに座りながら両手を見つめ手に注意力を集中する。そうすると手の役割（意義）貴重さがわかり始めると言います。その後、目を閉じて印象が来るのを待つと、両手が無数の分子で構成されていることや、休むことなく活動しているのがわかるとしています。そして、ツメや関節などを構成している分子に関する知識を得るということです。これらは、レントゲンで透視する以上の情報を得られるとのこと。こうしたことは、肉体のどの部分でも応用できるとしています。

これは、実際にやってみることで理解が早まるものと思います。こうして、何らかの印象を得られるならば、自信を起こさせることになると思っています。これは、肉眼で見えないものを見ることになるからです。そして、「全体に関連しているけれども心とは別に独立している肉体とその機能を理解し始めるでしょう。」と書いています。

こうなると意識という海の宇宙空間へ、心を拡大することができると言っています。こうして、「不可視の宇宙空間へ関心を持たば持つほど、ますます意識は肉眼が見ない物の印象をあなたの心に与える・・・」ということです。

うまくゆかない場合を想定して、「良き結果を得るまでには多くの習慣的な障害を除いてゆくことが必要です。」と書いています。この「多くの習慣的な障害」とは、固定観念や自己の思考の癖などで、これに囚われないことが求められます。ここは、なかなか大変なことです。また、意識と心との関係を正確に理解しておくことが成功への近道になるようです。

宇宙に“生きる”

<名言格言編104>

“火を避けて水に陥る（ひをさけてみずにおちいる）”

火に焼かれるのを避けたものの、水に溺れてしまう。一つの災難を逃れても、別の災難にあうたえです。こうしたことは、よくあることです。穴に落ちそうなので、とっさに横によけたら人とぶつかってしまう。交通事故でも、こうしたことはあるようです。



Q：書物「ロイヤル・オーダー」は今も真実？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：アダムスキー45才の円熟期のものです。これをラジオで流していたというから驚きです。内容は深遠であり、まったくの真実、真理の書です。ただ、社会生活を営む人向けというより、聖者や求道者向けに書かれているような内容です。やや厳しく、難しい表現となっています。

書物紹介

『日本書紀と日本語のユダヤ起源』ヨセフ・アイデルバーグ著 徳間書店

著者は、イスラエルの失われた十部族の探究者で、日本に見習い神官として住みつき、3千語以上のヘブル語と日本語の共通語を発見し、本書には500語を掲載しています。やや古い書物ですが、緻密な調査とユダヤ人ならではの発見が多く大変参考になります。訳者の久保田有政氏によると、音読みは基本的に中国語起源で、訓読みは「ヤマト言葉」と呼ばれるもので、その中にヘブル語との共通項が多く見いだされるようです。著者の絶筆にして最高傑作です。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

★東京開催★ 2024年3月16日（土）、7月20日（土）、11月9日（土）午後1時30分より台東区民会館第1会議室。状況により変更があるかもしれません。

【編集後記】

文字数が少ないので、コンパクトに書くのがなかなか大変です。しかし、どうにか完成して良かったです。HPもお読みください。

URL：<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第104号>

発行日 令和6年3月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町1-3000-1

発行責任 渡邊克明（禁無断転載）

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

善も悪も存在しない！ と、よく耳にします。これは、「悪は熱しきれない善にすぎない」という、ゾロアスターの言葉をアダムスキーが紹介しているからかもしれません。このイメージは、善も悪もつながっている、あるいは同一のもので、熱量によって善にも悪にもなると解釈できます。善も悪もたいした違いではないと取ることもできますが、大きな違いだと見ることもできます。それらは、宇宙の意識の中に同時に存在するものだからです。意識の中にある時は、違いはないのですが、宇宙という物理的な世界の中で表現されると違いは大きいのだと思われます。

人の行為の中で、意に介し熱量をかけると善となり、気かけないと悪になるとも考えられます。この時の善とは、いったいどのようなものなのでしょうか？

宇宙の意識には指向性があります。これがあるからこそ、恒星（太陽）は、宇宙のどこにも存在し、惑星や衛星が規則正しく運行しているのだと考えられます。この様は、宇宙に秩序があることを証明しています。宇宙創造時、ほどなく誕生したと見られる遠方の星々も、私たちの銀河系のように銀河を形成しているのです。

そこで、この宇宙を創造した宇宙の意識の指向性に沿う動きは善であり、それに反する動きは悪と表現できるのだと考えられます。宇宙の中で、知的創造物として誕生した人間は、その指向性をキャッチしながら、日々暮らしていく必要があるのだと推察できます。

そのことに気づかず、ぼんやり生きていくと、本来の役割に熱量を使わず、悪の方向へ動いているのだと理解できます。この熱量とは、人の想い、知恵、努力などと解釈できるもので、それなりの力（努力）を必要とします。

また、宇宙の意識の指向性とは、創造主の考え（想い）と解釈されるものです。これらの原理を人々に知らせ、創造主の考えを受け取れる“器づくり”を勧めるのが「生命の科学」なのだと思います。私たちは、「生命の科学」の実践として、宇宙の意識に対してアンテナを高くして、感じ取れたことは、熱意をもって進めていくようにしたいものです。

“言葉に注目”

< 知識と信念は「行動」が伴わねば価値がありません >

『宇宙維新』 G・アダムスキー著 たま出版

本書は、アダムスキーがUFO問題に関わる依然に出した論文等を編纂したものです。この表題の言葉の前に、「充実した目的ある人生を送るには、信念をともなった知識と、運命によって創造主から与えられた才能を使うことが必要です。」と書かれています。整理すると、いくら知識を積み重ね信念を強く持っていたとしても、それが行動にならなければ宝の持ち腐れであり、意味がないということです。知識や信念を高めて、隠者として生活するということがあります。これも行動かもしれません。しかし、本文の更に前段に、「人は生活を分断したり極端にはしったりしては、聖人になることなどできない。」と書いています。そこで、求められている行動とは、他者への影響ある生き方です。つまり、才能を生かした人々への奉仕だと思えます。

「生命の科学」学習のポイントPart105

今回は、レクチャー11「宇宙空間の探検」の前段と『意識で遠方を見る方法』です。前段で、昔の人は宇宙空間がカラッポな状態だと思っていたのは、肉眼で何も見ることができなかったからだ述べています。しかし、実際には、宇宙空間は活動的で物体を生み出す元素に満ちていると書いています。

次に、肉眼は、それを通して意識が外を見る窓ガラスであるとして、“意識によって見る方法”を続けるとしています。つまり、これ以降の解説はアダムスキーが意識によって見たことを述べているようです。

惑星の形成において、吸引が続いて塊ができ中心部が燃焼すると書いています。そして、「この熱は、諸元素を凝固させ・・・惑星を形成する諸分子中に眠っていた植物の種子を生み出します。」「この結果、昆虫やその他の生命体が惑星から生れ出ます。」と書いています。今日、生命体は、地球以外から彗星や隕石などでもたらされると考える学者が増えていますが、アダムスキーは、地球自体から発生すると伝えています。そして、他の惑星も宇宙空間から生まれ、地球とまったく同じように誕生しているとしています。もちろん、惑星によって大きさや鉱物の大小はあると述べています。

続けて、こうした現象が発生していることが、読者に感知できるかと問いかけています。もし、感知することができれば、進歩していることになると思います。「生命の科学」を読み進めてきた人なら、これらは可能だということでしょう。

そして、「地球がそれ自体から地上の万物を生み出したとするならば、他のあらゆる惑星も同様であるのは当然です。」として、地理的な差は、地球上の各地の差ほどしかないと書いています。これは、まったく理にかなっていると思いますが、地球上ではなかなか困難なところですよ。

宇宙に“生きる”

<名言格言編105>

“訛りは国の手形（なまりはくにのてがた）”

話す言葉の訛りで、その人の出身地がわかるということです。“手形”、というのは、江戸時代に旅をする際、関所（せきしょ）を通るときに必要なもので、身分証明書と旅行許可書を兼ねているものです。ここでは、“国”としています。地方と、とらえてもよいものです。



Q:「宇宙の意識」を信じられれば良いのか? ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A:「宇宙の意識」を信じる人々の中には、宇宙の意識は重視する一方、現実界をエゴで出来た世界ととらえ軽視する傾向があります。宇宙の意識を感じることに、現実を良好に生きることは対立しません。このバランスを取りながら生きる、ここに知恵が必要なのです。

書物紹介

『バチカンの狂気』 ジェイソン・モーガン 著 (株)ビジネス社

著者は、アメリカ出身で中国や日本の大学にも留学し、現在、麗澤大学国際学部准教授です。本書では、カトリックの大司教等による性虐待やバチカンの金銭的腐敗について、それと闘うピガノ大司教等の発言など多くの事例を紹介しています。バチカン内部の高位聖職者を中心とした「ディープ・チャーチ」と「ディープ・ステイト」が繋がって、全世界に左派的な観念を広げていると書いています。また、ここにアメリカの民主党や中国が絡んでいるとしています。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように!

★東京開催★ 2024年7月20日(土)、11月9日(土)、2025年2月22日(土)午後1時30分より台東区民会館第1会議室。状況により変更があるかもしれません。

【編集後記】

今回は、なかなかの多忙で、計画的に進めたもの大変でした。拙文となっていないか、やや心配なところですよ。HPもお読みください。

URL: <http://www.7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第105号>

発行日 令和6年5月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町1-3000-1

発行責任 渡邊克明 (禁無断転載)